令和 4 年 11 月

“技術士を目指し、共に迷い、共に歩み、報われる努力！”
第 18 期 PE 道場受講者の募集

技術者の技術力向上を目的に、PE（Professional Engineer 技術士）道場を平成 18 年度から実施し、その結果として、PE 道場から延べ 46 名の技術士を輩出することができました。

この受験講座は、技術士第二次試験の合格を本気で目指す技術者（建設会社、コンサルタント、公務員、年齢等は問いません。）を支援するために開講します。

＜試験制度の概要＞※2019 年より試験の方法が変わりました。下の表のとおりです。

＜筆記試験(総合技術監理部門を除く技術部門)＞

	改正前 ＜～平成 30 年度＞				改正後 ＜平成 31（2019）年度～＞			
試験科目	問題の種類	試験方法	試験時間	配点	問題の種類	試験方法	試験時間	配点
必須科目	「技術部門」全般にわたる専門知識	択一式 20 問出題 15 問解答	1 時間 30 分	30 点	「技術部門」全般にわたる専門知識、応用能力、問題解決能力及び課題遂行能力に関するもの	記述式 出題数は 2 問程度 600 字詰用紙 3 枚以内	2 時間	40 点
選択科目	「選択科目」に関する専門知識及び応用能力	記述式 出題数は回答数の 2 倍程度 600 字詰用紙 4 枚以内	2 時間	40 点	「選択科目」についての専門知識及び応用能力に関するもの	記述式 出題数は回答数の 2 倍程度 600 字詰用紙 3 枚以内	3 時間 30 分 ※選択科目の試験に休憩時間はありません。	30 点
	「選択科目」に関する課題解決能力	記述式 出題数は 2 問程度 600 字詰用紙 3 枚以内	2 時間	40 点	「選択科目」についての問題解決能力及び課題遂行能力に関するもの	記述式 出題数は 2 問程度 600 字詰用紙 3 枚以内		30 点

※総合技術監理部門については変更無し

主　催　：　NPO 法人技術交流フォーラム

資　格　：　技術士第二次試験受験資格を有するもの

（一次試験合格者で資格要件に該当する実務経験を有する者）

“必ず合格してやる！”という思いを有するもの

2 回か 3 回目で合格すればいいとお思いの方はご遠慮ください。

内　容　：　『総合技術監理部門を除く技術部門』を対象とし、以下の項目を実施します。

◆　オリエンテーション、経歴書の書き方、国土交通白書の見方

◆　論文の書き方の基本、選択科目対策（論文作成とグループ討議）

・実施予定期間は、11 月～翌年 7 月までです。

・受講者が決まり次第、11 月にオリエンテーションを実施し、6 月に模擬試験を行います。

・論文添削指導は、グループ討議の他に、担当講師や受講生間とのメールなどにより、講師と受講生が納得のいくまで繰り返し実施する方法です。（添削回数：無制限）

◆　受講生に沿った支援（２コース）をご用意しました。

・A コース（受験回数が複数回）：毎月 1 回（※第２土曜日）、計 9 回

・B コース（未経験者、希望者）：毎月２回（※第２・４土曜日）、計 14 回

※別紙１「ＰＥ道場タイムスケジュール（案）」を参照して下さい。

※原則、第２と第４ですが、変わる場合があります。

指導者　：　技術士保有者から適宜依頼し、指導方針についての協議のうえ選定しております。

勉強日　：　土曜日（10：00～16：00）を想定しております。

詳細は、オリエンテーション時にご説明いたします。

場　所　：　zoom によるリモートと佐賀市内の会場による対面です。スケジュールをご参照ください。

受講費　：

◆　A コース（受験回数が複数回）： 5 万円（NPO 法人技術交流フォーラム会員及び賛助会員：３万円）

◆　B コース（未経験者、希望者）： 7 万円（NPO 法人技術交流フォーラム会員及び賛助会員：４万円）

応　募　：　希望者は、11 月 16 日(水)　17：00 までに、下記の連絡先にメールして下さい。

必要書類を返信します。

連絡先：研修委員長　福岡　仁

メール　：fukuoka@sinwa-consultant.jp

Tel：0952-32-1348　、Fax：0952-36-6681

((株)親和コンサルタント　佐賀市卸本町 7 番 25 号)

応募時に、別紙３「提出課題について」に対する小論文（1,200 文字以内）を提出していただきます。提出を求める理由は、受講生の現状を講師陣が把握するためであり、円滑な支援を行うための基礎資料と活用します。

なお、その結果から個別に受講コースなどの相談をさせていただくことがあります。

別紙１

ＰＥ道場タイムスケジュール（案）

別表-1.1　予定表（オリエンテーション～筆記試験まで）

<table>
<tr><th></th><th>試験スケジュール</th><th>A コース</th><th>B コース</th></tr>
<tr><td rowspan="1">11 月</td><td></td><td colspan="2">オリエンテーション（11/19）※zoom リモート
第１回（11/26）※対面
論文の書き方（文章作法、骨子法など）
講師との経歴について議論（経歴書の書き方、経歴の棚卸し）など</td></tr>
<tr><td rowspan="2">12 月</td><td rowspan="2"></td><td colspan="2">第２回（12/10）※zoom リモート
経歴書に関する内容討議
過去問題の傾向分析と勉強方法の確認、キーワード学習</td></tr>
<tr><td></td><td>第２‘回（12/24）※zoom リモート
経歴書に関する内容討議
論文の書き方（文章作法など）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">１月</td><td rowspan="2"></td><td colspan="2">第３回（1/14）※対面
発想法（マインドマップ、KJ 法）の習得、キーワード学習
経歴書に関する内容討議
専門（基礎、応用）①　グループ討議</td></tr>
<tr><td></td><td>第３‘回（1/28）※対面
専門（基礎、応用）②グループ討議
経歴書に関する内容討議
発想法の実践</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２月</td><td rowspan="2"></td><td colspan="2">第４回（2/4）※zoom リモート
専門（基礎、応用）③グループ討議
発想法から指定時間で書く練習①
必須①　グループ討議</td></tr>
<tr><td></td><td>第４‘回（2/18）※zoom リモート
専門（基礎、応用）④グループ討議
発想法→書く練習②
必須②　グループ討議</td></tr>
<tr><td rowspan="2">３月</td><td rowspan="2"></td><td colspan="2">第５回（3/4）※対面（モチベーション維持対策①）
経験論文の最終チェック
必須①　グループ討議
専門（基礎、応用）⑤グループ討議
発想法から指定時間で書く練習③</td></tr>
<tr><td></td><td>第５‘回（3/18）※対面
経験論文の最終チェック
必須①　グループ討議
専門（基礎、応用）⑤グループ討議
発想法から指定時間で書く練習④</td></tr>
<tr><td rowspan="2">４月</td><td rowspan="2">【受験申込受付期間】
４月上旬より</td><td colspan="2">第６回（4/8）※zoom リモート
必須および専門（課題解決）①　グループ討議
・・・論文の添削を踏まえたグループ討議および指導
発想法から指定時間で書く練習⑤</td></tr>
<tr><td></td><td>第６‘回（4/22）※zoom リモート
必須および専門（課題解決）②
論文構成の再チェック
発想法から指定時間で書く練習⑥</td></tr>
</table>

別表-1.2　予定表（筆記試験～口頭試験まで）

	試験スケジュール	A コース	B コース
5 月		第 7 回（5/13）※対面（モチベーション維持対策②） 必須および専門（課題解決）③　グループ討議 ・・・論文の添削を踏まえたグループ討議および指導	
			第 7‘回（5/27）※対面 必須および専門（課題解決）④ 論文構成の再チェック
6 月		第 7 回（6/10）※対面（モチベーション維持対策③） 模擬試験（筆記試験） ※本番と同じ時間割での想定問題を実施	
		第 8 回（6/24）※対面 模擬試験に対するグループ討議 試験当日まで 2 週間の過ごし方	
7 月	【筆記試験】 7 月 9 日（予想）		
8 月			
9 月			
10 月	筆記試験合格発表		
11 月		模擬試験（口頭試験）：合格者対象 想定問答作成支援 個別の模擬面接試験（2 回）	
12 月	口頭試験	＜質疑の情報共有＞	

※記載内容は予定であり、受講生のレベルや人数などにより、変更の可能性があります。

※添削指導は、PE 道場開始と同時に随時実施します。

※受講者は、筆記試験の結果を報告していただきます。また、二次試験合格者の方には合格体験記を提出していただきます。

別紙 2

PE 道場受講者　合格体験記

【長崎県内の建設コンサルタント技術者　N さん（47 歳）】（令和元年度合格）

業務に必要な資格　地質調査技士、地すべり防止工事士、RCCM と段階的に取得し、技術士試験に挑むことになりました。（かなり前ですが・・・）

8 年前から受験を開始し、初めての受験は一般問題が択一になる前の最後の出題形式の時でした。この時は、独学(ネットの受験情報など利用)のみで受験し、「それなりに書けたかな」くらいの感覚でしたが、結果は不合格。それなりに書けたと思ったのは、今考えると完全な思い違いで、この「根拠のない自信」がその後の受験連続失敗の原因と思います。

その後は、毎年、受験申込をするものの、あまり勉強もせず、とりあえず受験にいくと状況。技術士受験が、なんとなく「年中行事」的な感じとなっていました。受験にも行かない、行っても午前中で諦めて試験途中で帰ることもありました。

試験勉強もしないまま受験を続け、数年が立ち、自分の年齢（この時すでに 47 歳）、会社での立場を考えた時に、「こんな状況ではまずい。」と思うようになりました。その時に、会社の先輩から PE 道場を紹介され、平成 30 年度受験から PE 道場に参加させて頂きました。初めて参加し、指導を受けた時に、申込書(経歴や業務詳述)の書き方から「目からうろこ」の状態となります。過去の申し込みは、とりあえず「受験資格はあります。」的な感覚で申込をしていたことに気づきます。自分のダメなところに気づき(以前からダメとは感じていましたが・・・)、せっかく PE 道場に参加し、多くの講師陣からの指導を頂けるのだから、何としても合格したいとモチベーションがアップしてきました。今まで、過去問を真剣に回答することなどありませんでしたが、PE 道場に通い、講師の皆様から論文添削を受けることで、いろいろな考え方や、論文構成について学ぶことができました。また、同じ受講生の論文も、読み合わせを行い、意見を交わすことで、多くのことを参考にさせて頂きました。

昨年度(平成 30 年度)は、絶対に合格するという意気込みで受験しましたが、結果は択一で足切り(1 問不足)。過去の択一問題を何度も繰り返して勉強し、失敗することはないと思っていました。実際の受験の時は、択一問題が予想以上に難しく感じました。午後の記述は、重い気分のまま挑みましたが、勉強した通りの問題であったため、それなりに記載ができたと考えていました。しかしながら、択一で足切りとなったため、評価してもらえません。論文の評価が判らないのは非常に残念でした。筆記試験が終わってからは、しばらくは技術士受験のことは考えず、ひたすら業務に打ち込む日々を過ごし、2 月ごろに、次回の技術士受験のこと考え始めました。前回、PE 道場に参加したことで、勉強方法はわかってきたし、次は、自学で受験しようかとも思いました。しかし、自分の性格は、「己に甘い。すぐ、楽な方を選ぶ。」ことを自分自身が一番わかっています。道場に参加しないと、論文の添削が受けられないことや、以前のように勉強しない日々が続くと思い、令和元年度も参加することを決意しました。

令和元年度、最初の勉強会で講師の皆さんや、前回、同じように涙をのんだ同志と再会。熱心に指導していただいたにもかかわらず、不合格となり「申し訳ない。」「今年もよろしくお願いします。」という気持ちになり、「今年こそは合格するぞ。」と少し燃え始めます。令和元年度も前回同様、講師の皆様からの添削、情報提供、受講生の論文など非常に勉強になりました。また、自宅での学習も、休日はほぼ「引きこもり」状態です。PE 道場に参加した 2 カ年、ゴールデンウィーク中はひたすら論文作成に勤しみ、「GW の思い出」

など一切ない状況(そんな年齢でもないんですが・・・)。PE 道場に参加する前の自分では、まったく考えられない取り組みです。

自分では、やり切った気持ち？で、いざ筆記受験。試験制度が変わったこともあり、問題Ⅱ-2、問題Ⅲでややつまづくも何とか記述が終了。このとき、昨年の記述の方がよく書けた気がし、不安になります。なんとなく、「今年もダメかな。」と思っていました。ネガティブな性格なもので、、、受験後は、豪雨災害対応業務に追われ、論文をきちんと復元していませんでした(キーワードや記載した流れだけを記録)。筆記試験合格発表の時は、あまり期待感も無く、出社後、しばらくしてから受験番号を確認しました。筆記合格を確認したときは、うれしい気持ちよりも、「口頭試験」への焦りと緊張が上回っていました。論文の復元をきちんとしていなかったからです。その後、業務の合間に論文の復元し、PE 道場の模擬口頭試験に挑みました。模擬試験とは言え、初めてのことでかなりの緊張。2 回の模擬口頭試験を実施していただき、口頭試験の雰囲気をつかんだところで、いざ本番へ。

口頭試験は、数日前から緊張が高まり、本番直前は緊張マックス。さらに、模擬口頭とは、確認事項の傾向が違っていたため、かなり焦ってしまいました。ただ、「わかりません。」だけは禁句とし、ひたすら思い付きで何とか受け答えしました。終わった後は、脱力感でいっぱいです。それから、合格発表までまた緊張が続きます。発表前日は、まるで口頭試験直前の気分です。合格発表で自分の受験番号を確認したときは、緊張から解き放たれ、ほっとした気分になりました。筆記試験も口頭試験も、あまり手ごたえを感じていなかったのですが、努力を続ければ、いつか結果につながると実感できました。

独学ではなく、講師の皆様に指導していただき、また、同じ志を持つ受講生と共に勉強することは、非常に重要だと感じました。特に、自分より若い講師の方からのアドバイスは、「若いのにすごい。」と非常に刺激となり、自分も追いつきたいという気持ちがモチベーションの向上に大きくつながりました。

2 カ年にわたり、熱心にご指導頂きました講師の皆様、共に勉強させていただきました同期受講生に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

独学での勉強に不安がある方、勉強方法がわからない受験生は、PE 道場に参加してはいかがでしょうか。私は、もっと早く PE 道場に参加しておけばよかったと思いました。

【佐賀県庁職員　N さん（54 歳）】（令和 2 年度合格）

平成 30 年度一次試験に合格後、二次試験に向けて過去問を解こうとしたものの、ほとんど何も書くことができませんでした。そのため、令和元年度二次試験の受験を見送り、独学でキーワード集や論文の作成を行っていましたが、手応えを感じることができないまま時間が経過していきました。そのような時、職場の先輩技術士の方々から PE 道場を勧められ、受講（B コース）することを決心しました。

振り返ってみて、PE 道場を受講して大変良かったと感じたことは、次の 3 点です。

・受験の心構え、勉強方法や論文の書き方、二次試験分析、最新技術の情報が詳細・豊富に提供されること
・受講生がやる気を持って求めれば、講師の先生方が無制限・丁寧な指導で応えていただけること
・同じ志を持つ受講生と切磋琢磨でき、モチベーションの維持・向上につながること

実務経験証明書や論文は、PE 道場受講により、独学時と比べ形式・内容ともに全く違う形に“進化”することができました。PE 道場受講がなければ、今回合格はなかったと感じています。二次試験合格に必要な多くの気付きをご教示いただいた講師の先生方に深く感謝申し上げます。

【長崎県内の建設コンサルタント技術者　F さん（40 歳）】（令和 3 年度合格）

私が PE 道場に参加するようになったのは 2018 年からでした。2021 年度で合格するまでに 4 期お世話になり、建設部門：河川、砂防及び海岸海洋を受験し続けました。PE 道場に参加したきっかけは、グループ会社の方からの紹介でした。「河川砂防」自体の受験は、受験が可能となった 2012 年から毎年受け続けており、実に 10 度目のチャレンジで合格できたことになります。PE 道場に参加するまでの 6 回の受験は、正直、勉強という勉強はほとんどせず、時期が来たら惰性で受けるいわゆる"記念受験"が続いていました。必須科目が選択問題だったことから、選択問題の勉強だけをやって、受験対策をしたつもりでいました。6 回の受験で何ら手ごたえがなく、先輩から言われていた「日々の仕事をきちんとやって、問題に恵まれれば、そのうち受かる。」は、自分にとっては違うのだろうと気づき始めた時期でした。PE 道場１年目は「途中でリタイヤする人が多い」と聞いていた通り、精神的にかなりつらかった記憶があります。私が何とかやれてこられたのは、技術士を志す仲間がいたことが大きかったと感じます。特に河川砂防を受験する仲間は、２年目、３年目、４年目と常にいたことで、PE 道場以外の時間も、情報のやり取り等、切磋琢磨できる環境ができあがっていたことが、私が、めげずに続けられた大きな要因です。合格できたことについては、PE 道場で培った以下のことがあります。

・講師の方々から、最新の情報をいただけたこと
・講師の方々からの添削＋補足情報
・論文読み合わせでの、ロジックの組み立て方への指摘
・他の受講生の論文を読むことでの言い回しの拝借

私の勉強法を少し紹介します。

・基本的には PE 道場で言われたことをやる。
・PC で情報を管理し。最終年度は Windows の OneNote、OneDrive を利用。PC、スマホ、タブレットどれでも確認できるのでお勧めです。
・その中で重要と感じたものはノートにまとめる。（毎年 3 冊くらい作成）
・その他、付箋を使って、部屋の壁に重要ワードを貼って、常に見るよう心掛ける。
・論文は基本的に 60 点をもらえるまで修正、添削をお願いしました。3 年目までにある程度書くスピードは身についたので、最終年度は全て PC で論文を作成しました。（手書きよりも管理が楽です。）
・マインドマップはテーマごとに作成、何度も修正し、頭に入れ込む。

合格できた 2021 年の試験の時の感想を紹介します。

【問題Ⅰ】廃棄物問題と豪雨災害の２択。環境系の問題は直前まで準備していましたが、廃棄物に特化した問題で出された場合、全く書ける自信がありませんでした。問題をサッとみて、災害の問題を解くことを決めました。２５分かけて丁寧に骨子作成。PE 道場での成果を存分に発揮できたと思います。講師の方から注意されていた"問題Ⅲとの差別化"を意識しました。河川砂防分野と大きく内容がかぶりますので、河川の話題を極力消して、都市計画や道路の話題を多めに入れこんで論文を書きました。具体的には、「流域治水」という最重要キーワードを使いませんでした。（というのも、PE２年目で不合格となった年に問題ⅠとⅢが同じような豪雨災害のテーマで出題され、ほぼ同じことを書いてしまった経験があり、不合格となった経験があったからです。）

【問題Ⅱ-1（2 番目に解答)】全体を見て、「河川を勉強しておくべきだった」と、後悔しました。私の専門である砂防分野からは、過去に出題されたことのない砂防の専門的な問題が出ました。完全にノーマークで合格レベルの論文を作ることは無理だと判断しました。結果、悩んで、ダム再生を選択しました。これは、２年前くらいにメンバーの方が作られた論文をなんとなく記憶していたことから、記憶を絞り出して解答しました。

【問題Ⅱ-2（1 番目に解答)】維持管理問題が想定通り出題されました。もう 1 問の「被害想定区域の設定」も書けそうな内容でしたが、維持管理を選択しました。PE 模試通りの内容でしたので、問題なく解くことができました。ただ、PE 模試でもスムーズに書けていたことから、最後の復習をしておらず、少しつまずきながら解答した次第です。想定通り 1 時間程度で書き終えました。

【問題Ⅲ（3 番目に解答)】問題を見た瞬間、“やばいなあ”と焦りを感じました。問題内容は「建設 DX」と「地震被害のセンシング技術」でした。後者はさっぱりわからないので、「建設 DX」を解くしかありませんでした。ここで、“今年度の重要テーマである「建設ＤＸ」は問題Ⅰ、Ⅱ-2、Ⅲ、それぞれでかける準備をしておくことが大事”と言われた講師の言葉を思い出しますが、後の祭です。問題Ⅰでしか準備していなかった自分を恥じます。とりあえず、準備してきたことを書き出し、骨子を作成します。焦ってしまい、(2）の解決策を 3 つ示せを見逃していました。3 枚を埋めるため、解決策を 4 つ提示してしまう始末です。A 判定をもらえたことが不思議なくらいでした。ただ、昨年度 7 行残しで B 判定だったことから、とにかく埋めることが重要と思っていました。（講師からの 7 行あれば 1 テーマ書ける、という言葉が忘れられません。）

＜試験全体の感想＞

問題ⅠとⅡ-2 は手ごたえあり。Ⅱ-1 とⅢは手ごたえなし。来年に向けて勉強しなきゃと思っていました。合格できたことは、採点者に恵まれたのではないかと思います。

【長崎県内の建設コンサルタント技術者(経営者） K さん（39 歳)】（令和 3 年度合格）

【受験とＰＥ道場入門の動機】私が技術士を目指した動機は、社会の中で評価されるために、より大きな力で社会に貢献する必要があると考えたからです。会社というのは今後も安定して現在の価値を有しているわけではない。数年後には無くなるというリスクを常に抱えており、社内だけに止まらず広い建設業というフィールド全体で有用な人材になる必要があると考えていました。また、私はせっかちなので、より早く、より大きな力で活躍したい。地域を代表するプロジェクトで中核的な役割を果たしたいという欲求が常にあり、合格するまでの所要時間を買う、という考えでＰＥ道場に申し込みました。

【必要な量の努力を行うための対策】技術士試験合格に必要な量の努力を行うことは、私たち現場の一線で働く技術者の難関となっています。多くの技術者と同様に、私も春は比較的業務量が落ち着いていますが、梅雨等の雨季から災害対策の業務に忙殺され、そのまま繁忙期の年末・年度末に突入するというパターンを入社以来繰り返してきました。しかし、いくら効率的な勉強方法であったとしても、その絶対量が少なければ効果は限られるため勉強量を増やすための対策として以下を行いました。

【勉強時間のルールを守る】例えば土日は 48 時間の休みで、土曜に 14 時間、日曜日は 6 時間勉強する。平日は寝る前に 5～30 分家族との時間を作り、それ以外の時間は勉強する。このようなルールは、常に完全に守ることはできないかもしれませんが、自分を勉強へと向かわせてくれる力があり、勉強時間増加に有効でした。

【完成した論文を繰り返し聞く】私たちの生活には風呂に入る、歯を磨く、移動する等、多くの隙間時間が発生します。私はその時間を有効活用できないかと考えました。そこで、一定程度の質に達した論文を自分で朗読し、スマホのボイスレコーダーで録音しました。そしてそれを移動や作業の最中に、繰り返し「ながら聴き」するという工夫を行いました。これは、もちろん論文のインプットにも役に立つかもしれませんが、効果はそれだけでなく、繁忙期に新たな論文作成等の腰を据えた勉強に取り組めない時でも、勉強のスイッチが完全なオフにならず勉強の再開がスムーズになりました。

【論文の添削を積極的に受ける】ＰＥで受講する間、私が作成した論文を複数の講師の方々が添削してくださりました。講師の皆様の熱量は凄まじく、添削のレスポンスが非常に早いため私も追い立てられるように論文を作成し続けました。試験を受ける私ではなく、指導者がこれだけの熱量で指導してくださったため、

受講する側が負けてなるものかという思いもありました。結果として多くの論文を作成することができ、ご指導を通して生まれるコミュニケーションのおかげで、頭の中は常に技術士試験のことを意識する状態となり、勉強のサイクルが途切れなかったことは、勉強量確保の大きな要因となりました。

【試験を受け続けること】私はＰＥ道場に通い始めて２年目で無事試験を通過することができました。1 年目は午前中のⅠ[必須]で僅か 1 点不足し、不合格でした。継続は力なりと言いますが、不合格の後も勉強を継続した甲斐もあり、次年度の試験では十分な見直し時間が生まれる試験とすることができ、無事合格しました。もちろん一度で合格することが理想なのですが、努力を継続することで常に合格へ向けて前進することができるのも技術士試験の特性だと考えます。受け続けることで、自分と相性が良い問題が出題される年に巡り合う可能性もあるのだろうと考えます。

【論文の質を上げるための対策】勉強量を増やすだけでなく、その中で常に論文の質を上げることを意識して学習に取り組まなければ合格までの道のりは非常に長いものとなります。私はＰＥ道場でご指導を受ける中で以下を意識し、論文の質を向上させてきました。

【論文の添削を積極的に受ける】勉強量増加と同じ対策になります。合格する論文を理解するためには、数多くの合格レベルに達した論文に触れることが重要だと考えています。理想は合格レベルの論文を、多数自分で作成するということです。私は幸いにも PE 道場でご指導いただいていたので、数多くの論文を添削していただき、一定程度の質に達した論文を作成することができました。技術士試験の難しいところは『知識』を蓄えアウトプットできるようになれば受かる試験ではなく、技術士としてふさわしい『考え方』をアウトプットできるようになれば受かる試験ということです。二度三度と論文を修正、添削していただく中で、技術士である講師の皆様から『考え方』を学べたことは、今振り返れば非常に有意義な取り組みでした。

【繰り返し問題文を読む】私が論文を作成していた時、講師の皆様から問題文の題意とズレが発生しているというご指摘を度々いただきました。例えば問題文の前書きに地球温暖化等のことについて述べていれば、課題抽出や技術的提案はそれに沿ったものとする必要があります。一見当たり前のことなのですが、夜中に一人で論文を繰り返し修正しているときは視野が狭くなり、問題文と自分の論文にズレが発生していました。対策として非常に有効だったのが、講師に教えていただいた問題文のキーワードにアンダーラインを引き、回答中に繰り返し問題文を振り返って読むことです。試験中はもちろん普段の学習中も、じっくり問題文を繰り返し読んでいる暇はありません。しかしアンダーラインのおかげで時間をかけずに題意とのズレが生じていないか、何度も確認しながら論文を書き進めることができ、質の向上に繋がりました。

【Ⅰ[必須]とⅢ[課題解決]の違いを意識する】私は応用理学部門の地質科目で受験しましたが、建設部門やその他の部門でも、ⅠとⅢで似たような論文になりやすい傾向にあると考えます。いずれの問題も、多角的・多面的・多様な視点で課題を抽出し、技術的な解決策を述べることを求められますが、求められる回答の違いを意識するように心がけました。Ⅰ[必須]は地質だけでなく応用理学受験者全員が解く問題なので、地質だけでなく地球物理や化学にも共通する、広い視点で課題抽出や解決策の提示が必要でした。一方、Ⅲ[課題解決]は地質科目の一問題であることを考慮すれば、地質の専門性により焦点を当てた課題抽出や解決策を述べる必要があります。これが建設部門であれば、Ⅰ[必須]では道路や都市計画、砂防といった建設部門全体の広い視点を持ちます。Ⅲ[課題解決]では専門分野の技術を深く掘り下げた内容とするように工夫し、Ⅰ[必須]とⅢ[課題解決]の違いを明確にしました。

【最後に】私は今、ＰＥ道場に通い始める前の論文と、令和 3 年度技術士試験の再現論文と見比べ、入門して本当に良かったと感じています。ＰＥ道場のおかげで技術士になるという目標を、試験を受け始めて 3 年、道場に通い始めて 2 年で達成できました。最後に、ＰＥ道場の存在をご教示いただき、お声がけいただいた古江様。そして、面識やお付き合いがあったわけでもないのに入門を快諾いただいたＰＥ道場の皆様。業務がお忙しい中、熱心に指導してくださり、激励の言葉を最後までかけていただいた講師の皆様に心からの感

謝を申し上げます。誠にありがとうございました。このご縁を大切にし、今後も皆様と良いお付き合いが続きますよう、研鑽を継続すると共に後進の指導を行う等、より公益に資することができる技術者を目指します。

別紙 3

第 18 期 PE 道場

提出論文の課題について

【課　題】

あなたが今まで経験した業務の中から 1 つを選び、技術士の視点から以下の内容について、記述せよ。

技術士の視点とは、「様々な問題のなかから業務を履行するためのボトルネックを見つけ出し、リスク管理をしつつ、課題を解決する。」という課題解決能力のことである。なお、選択する業務は、「計画、研究、設計、分析、試験、評価（補助的業務を除く。）または、これらに関する指導」のいずれかに該当し、主体的に実施した業務とすること。

解答は、600 字（24 字×25 字）用紙 2 枚までとする。

（１）業務におけるあなたの立場と役割を説明せよ。

（２）（１）で挙げた業務に対して、技術的な内容を説明せよ。ただし、必ず課題と問題点を明記すること。

（３）（２）で記述した問題に対して実施した複数の技術的な提案を挙げ、あなたの考えとともに説明せよ。

（４）（３）で説明した解決策による成果を説明せよ。

（ 以　上 ）

【注】

- 様式は、PE 道場事務局からメールにて送信します。
- 提出する論文は、手書きを基本とします。
（ただし、やむを得ない場合、ワープロでも可とします。）
- 解答用紙の 1 枚目には、氏名、受験回数、技術部門、選択科目、専門とする事項を必ず記述してください。
- 上記の課題に対する質問は、受け付けません。